

吉川育英会だより

友の会（OB会）会員と現役奨学生からの近況報告 Vol.3



▲フィアンセと一緒に龐さん(写真左)

龐 然（ほう ぜん）
中国 九州国際大学（OB）

平成21年に吉川育英会の奨学生を修了した龐 然です。修士課程の1年間、ご支援いただきました。当時、奨学金を頂くことで、学業に専念することができて、本当に助かりました。また、他の奨学生のみなさんとの交流の場を提供していただいたことにも感謝しております。「奨学生の集い」の中で、意見交換したことや、工場見学に参加させていただいたことが、貴重な体験として心に残っております。吉川育英会様は昨年20周年を迎え、その間多くの留学生に奨学金援助をしてられました。この度、「地域社会貢献賞特別賞」を受賞されたことをホームページで拝見し私も大変嬉しく思いました。心からお祝い申し上げます。そしてこれからも引き続き、留学生をご支援いただきますようお願いいたします。

私は去年3月まで、北京の知的財産事務所に勤務しておりましたが、現在は地元大連のコンサルティング事務所に転職いたしました。主な業務内容は、中国に進出している日本企業を中心に、法務コンサルタントや国際的な人材紹介などのサービスを提供することが内容となっています。この職場で、私は日本の留学時代に学んだ知識を活用しながら、充実した毎日を過ごしています。

最近、私は東京に行く機会があったのですが、スケジュールの都合で北九州に行って吉川育英会様にご挨拶ができなかったことを残念に思っています。次回日本に行く機会がありましたら、是非寄らせていただきたいと思っております。今回は近況報告をさせていただきありがとうございました。未筆ですが、皆様のご健康を心よりお祈りしております。

崔 雪子（サイ ユキコ） 学生生活の中で、卒業前の一年間は経済的に一番厳しい時期でしたが、吉川育英会様に支援していただくことで、これを乗り越えることができました。心から感謝申し上げます。6年前、希望と不安を抱きながら、日本に来た時のことが、

今よみがえってきます。今は母国語以外のコミュニケーションが、できるようになりましたが、来日当初は言葉もよく理解できず、知人はひとりもない状況で、頼れる方もいなくて、全てが未知の世界でした。つらさや寂しさを全部飲みこんで、自分の進むべき道を模索しておりました。その様な時、私に手を差し伸べてくださった方々には心から感謝しています。吉川育英会様からの支援は大きな支えのひとつでした。大学1・2年の時にいただいた他の奨学会からの支援もありがたかったのですが、吉川育英会様では更にふれあいの場を設けてくださいました。育英会の方や他の留学生との交流で深めることによりできた絆は私が日本で得ることができた財産になっています。

私にとって、経済的な面の支えだけでなく、心を休める場所として存在していました。会の方や同期の奨学生たちとの結びつきは心の支えとなり、これからの人生の中で、かけがえのない存在となっていくと思われま。会を離れたのは寂しく感じますが、新しいステージでの自己実現を夢見ながら、頑張りたいと思います。



□■ 吉川育英会事務局より ■□

吉川育英会は多くの皆様のご支援に支えられ、昨年設立20周年を迎えることができました。これを記念して、ホームページを開設しました。

吉川育英会出身者が卒業後においても未永く、協力関係を築いていく場所としてこのコミュニティサイトが活用されることを願っています。

「努力は実る」という言葉を硬く信じながら前に進みたいと思っておりますので、これからもご支援をお願いいたします。

さて、慌ただしい毎日が続いておりますが、近況をご報告いたします。3月に大学を卒業して、大分市に本社がある江藤酸素(株)に入社しました。少し会社のPRをさせていただきますと弊社は九州全体を営業範囲としており、工業用、医療用の液体酸素や液体窒素を販売するのが主要な業務です。海外の拠点として台湾、上海、大連、そして今年3月に新しく韓国釜山に現地法人ができました。私は北九州小倉にある国際部に勤務しており、アジア諸国で製作された工業用品を日本に販売する商社的な業務に携わっています。会社の従業員数はグループ全体で約300人、その中で外国人は6人で、私はそのひとりです。

入社後、4日間の新入社員研修が終わるや否や早速、中国に出張してきました。しかし耳に入る言葉は全て貿易用語、機械用語で、全く会話に入り込んでいけません。教育の分野を学んできた私にとって、目の前に現れるものは初めてのものばかりで、これから学ばべきものが山のようにあるように思いました。機械と仲良くしないといけなことは理解しているつもりですが、委縮してキョートンとなるばかりです。3泊4日間の短い出張でありましたが、1ヶ月のように長く感じ、日本に戻って来てからもやらなければならない宿題が山ほどあって、大変な毎日でした。幸い、ユーザーの方やメーカーの方々が親切に教えてくださいました。



▲卒業式で担当教授と（写真右）

「入社して4日目なので、解らないのは当然で、焦らずにやって下さい」と励ましてくださり、勇気を取り戻すことができました。しかし、いつまでも新入社員として特別扱いされることはないでしょう。早く一人前になれるよう頑張らねばと思っています。今は、業務の流れを一つずつ見極めながら、そして上司の方に愛の鞭で叩かれながらの毎日が続いています。

まだ専門知識に乏しい自分ではありますが、母国の文化と日本の文化の両方を知っている私たちの働き場所は充分あ



▲出張先の韓国にて（写真右端）

と思っています。最近ではそれほどではありませんが、日本人は中国や韓国で作られたものは精密でないと言いき、逆に中国人や韓国人から日本人をみると必要以上に細かすぎると言います。うまくバランスをとりながら日本の製品の品質へのこだわりやサービスの素晴らしさをアピールしてゆきたいと思っています。課題は私の前に山のように立ちはだかっていますが、持ち前のやる気と自信を持って目の前の山を登っていきます。

吉川育英会のOBの皆さん、絆を大切に協力しながら共に頑張りましょう。そして、吉川育英会様の発展を心からお祈り申し上げます。私も何かお手伝いすることがあれば、協力させていただきます。今後共よろしくお願いたします。